

アビリンピック^{埼玉}で金賞

越谷の佐藤さん「表計算」で

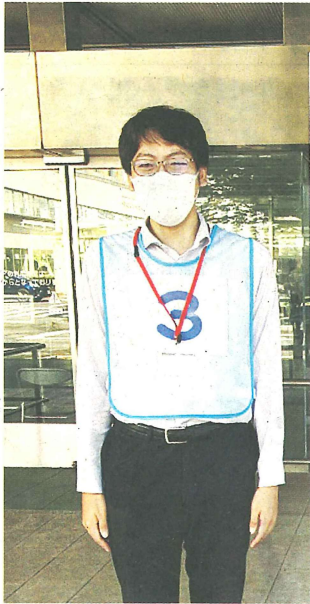
初出場、根気強さで快挙

12月に
全国大会
正確性や速度に高評価

「アビリンピック」(A BILYMPCS)は、「アビリティ」(ABILITY・能力)と「オリン」で培った技能を競う大会。

第17回

アビリンピック埼玉大会



全国障害者技能競技・県大会で「表計算」で金賞を獲得した佐藤さん(下は勤務先でプログラミングの仕事)



「埼玉大会2021」は7月10日、所沢市の国立職業リハビリテーションセン

越谷市瓦曽根のボラスグループ「ボラスシェアード」(中内晃次郎社長)社員の佐藤桂輔さん(31)が、先月開かれた「第17回全国障害者技能競技大会(アビリンピック)埼玉大会2021」(主催「独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構埼玉支部」)の「表計算競技」で見事、最高位の金賞を受賞した。「アビリンピック」は障害のある人の職業技能を競う大会で、精神に障害を持つ佐藤さんは初出場で、いきなりの快挙。佐藤さんは12月17日から4日間、東京都内で開催される「第41回全国アビリンピック」に埼玉県代表として出場する。「全国では、求められるレベルが上がるけど、金メダルを狙う」と佐藤さんは意欲満々だ。

ターで開かれた。競技は「表計算」や「ワード・プロセッサ」などのパソコン系や、「電子機器組み立て」のメカトロ(メカトロニクス)の略、機械・電子工学)系、「喫茶サービス」などのサービス系など11種目。

このうち、「表計算」競技は、数式の修正や書式設定、データ処理やグラフの作成をするもの。関数の知識も必要で、課題の正確性や速度が評価される。表計算には6人が出場した。佐藤さんは「過去問題を解き続け、わからない問題を根気よくやり切った。初出場で緊張しましたが、当日は問題をやり通すことに必死でした」と振り返る。「ボラスシェアード」社は、住宅メーカー「ボラスグループ」の住宅設計補助業務や事務などの代行業務を行っている。社員49人のうち36人が障害者。入社1年目の佐藤さんは、主にパソコンを使って、プログラミングの仕事をしている。中でも、ロボットを用いた業務自動化の仕事に取り組

んでいる。県大会には同社から、同じく表計算競技に俵山泰生さん(36)、パソコンデータ入力競技に渡辺啓仁さん(26)が出場、「ボラス」からも吉田智彦さん(40)がDTP(パソコンでデータを作成し、印刷物を作る)競技に出場して

3人はそれぞれ銅賞を受賞した。佐藤さんは「全国大会でも、私自身がやることは変わらず、よい結果になるよう、まい進したい」と話している。